

令和7(2025)年度 下都賀地区特別支援教育中高連絡協議会を開催しました

I 研修の目的・内容

(1) 目的

発達障害等のある生徒に対する中学校の支援の取組を進学先の高等学校等に引き継ぐための相互理解を深め、高等学校における支援継続に資する。

(2) 内容

ア 全体説明

(ア)「『一貫した指導支援』の引継ぎの考え方」

県教委特別支援教育課

(イ)「通常の学級における個別の指導計画作成と活用の考え方」

下都賀教育事務所インクルーシブ教育エリアコーディネーター

イ 実践発表

(ア)「通常の学級における個別の指導計画の活用」 栃木市立岩舟中学校

特別支援教育コーディネーター

ウ 情報交換

2 本連絡協議会で確認したこと

(1) 「一貫した支援」とは

- ・PDCAサイクルに基づく個別の支援計画の作成と活用



(2) 「個別の教育支援計画」による引継ぎの課題及び対応

- ・中学校から高等学校等への引継ぎ状況
- ・引継ぎの課題
- ・個別の教育支援計画を活用した引継ぎ



(3) 通常の学級における個別の指導計画作成と活用の考え方

- ・特別支援教育の考え方と障害のとらえ方
- ・通常の学級における個別の指導計画作成と活用の考え方
- ・中・高の引継ぎの留意点



(4) 通常の学級における個別の指導計画の活用

- ・「支援の手立て」を共有することが生徒の変容につながる
- ・否定的な表現でなく、肯定的な表現を用いる
- ・困り感の「背景」について考える

3 本連絡協議会での学び（参加者が記入した「振り返り」から）

- ・中高の連携が大切であることや個別の教育支援計画を作成するにあたり、コーディネーターとして先生方に作成の意義や手順、活用方法等を説明するときの参考になりました。
- ・引継ぎは、診断名だけを伝えるのではなく、生徒の対応の中でうまくいく条件や対応の仕方等を伝え、その子の持っている力が発揮でき、手助けとなるようにすることが大事であることや、将来に向けての姿をイメージして支援していくことの大切さを学ぶことができました。
- ・うまくいっているのは何故なのかそこを探っていくことが大切であるということを聞いて、職員に周知したいと思いました。また、引継ぎについてもうまくいく条件を引き継ぐということで、それができるようにしていきたいです。
- ・支援体制にも関わりますが、生徒に関しての情報交換を委員会レベルで大々的に行うのではなく、定期的にコンパクトに行えているという話を聞いて、とてもいいなと感じました。
- ・年度始めに支援計画の作成について、丁寧に職員に周知し、生徒や保護者からアンケートを実施することでお互いの困り感など把握できる実例を聞いて、実践したいと思いました。
- ・配慮をする生徒の自信を育てることが大切であるため、うまくいっている状況をなるべく多くみつけ、それはどんな時かを職員で共有し、指導や支援に生かすことが大切であると理解することができました。
- ・特別支援教育コーディネーターとして、学校全体に取り組める環境を作ることの難しさはもちろん、それを職員全体で共通して行うことの難しさについて、話合いの中で多く出てきました。
- ・高校の先生とお話をすると、高校に入ることを目標にする進路指導ではなく、これから生きていくため、どこを終着点にしていくかを明確に指導していくことの大切さについて再認識しました。
- ・高校の先生との話では、引き継いだ生徒の情報がどのように周知されていくのかを知ることができて、安心しました。
- ・高校でどのように取り組んでいるのか、その取組の様子を伺えたことがよかったです。コーディネーターになった先生が引継ぎをもとに関係する先生方と対応に当たっていることを知りました。
- ・高校への引継ぎが不十分な実情を感じました。引き継ぐためにも、日ごろからの保護者との連携を大切にしたいです。
- ・中学校での生徒の実態に合わせた指導についてお話を伺うことができ、学年やクラス全体を巻き込んで工夫されながら指導されていることに驚きました。
- ・中学校の先生から特別支援教育コーディネーターの実務の話を聞けて、役割のイメージを持つことができました。
- ・中学校の特別支援教育の状況など直接話が聞けて、得るものが多くかったです。
- ・中学校や他校の先生の取り組みが具体的で組織的に行われていることがよく分かりました。

